

# 第1号議案 2015年度経過報告ならびに2016年度活動方針に関する件

## I.2015年度活動のまとめ

### 〔2015年度活動の概況〕

2015年度は診療報酬・介護報酬改定に対応した事業（医療と介護）にとりくみ、介護部門は事業に責任を持つ介護事業部会を常務理事会のもとにおきました。地域支え合いセンター事業とサービス付高齢者住宅事業をすすめ具体化し、2016年度建設となります。組織組合員活動推進本部会議を毎月開きながら、「仲間ふやし」に重点を置きつつ4課題をすすめました。通信教育は206名受講を組織しました。ヘルスアップチャレンジも996名/目標1000名に迫りチャレンジを組織しました。

戦争法案に反対し憲法を守る運動をすすめるとともに、いのちの分野に生かし協同の力で社会保障の充実、安心して住みつづられるまちづくりの活動や核兵器廃絶・平和の運動にとりくみました。第29回日本高齢者大会 in 和歌山を組織あげてとりくみ、全体で2日間のべ5100名参加と大成功に寄与しました。16新卒研修医1名受け入れ、薬剤師・看護師・セラピスト・事務・介護職など常勤の3月からの受け入れは31名になりました。医師・看護師・セラピスト等奨学生づくりを含め後継者養成に努力しました。

第27回組合員職員活動交流集会は、「かるしおプロジェクトのとりくみ」（国立循環器病研究センター 副栄養管理室長 西井和信氏）24時間蓄尿塩分調査と「すこしお生活」～少しの塩分ですこやかな生活～推進方針、「憲法・平和と私たちのいのちとくらし」（名古屋大学名誉教授 森英樹氏）講演と活動報告に250名がつどい、秋の強化月間をすすめました。第35回生協祭り、各地区バスツアー、9年ぶりの保健大学開講やまちかど健康チェックや認知症サポーター養成講座などもとりくみました。課題とした第6次中長期計画はもちこしています。

## 1. 事業・経営活動

### 一 保健・医療・福祉(介護)一

- ① 介護報酬改定に対応し、医療・介護活動での連携強化などを課題として医療連携室強化やかかりつけ医としての機能を強化しました。強化型在宅支援病院・診療所として、今年度も8医療機関グループで、看取りと緊急往診で法人を超えた協力が前進し、在宅地域連携拠点事業は講演会・懇親会・地域住民啓発活動・学習会などをすすめました。入院機能は、一般急性期の7対1病床、回復期リハビリ病床を維持し、地域包括ケア病棟病床は在宅復帰を援助する病室としての役割を果たしています。
- ② 地域支え合いセンター事業とサービス付高齢者住宅事業の具体化をすすめ、補助金の確定通知を受け建設に入っています。
- ③ 介護事業全般の事業の推進体制強化のために介護部門の事業に責任を持つ介護事業部会を常務理事会のもとにおきました。各介護事業の統括責任者から事業報告を受け、運営について協議し推進しています。介護職確保・養成や介護福祉士実務者研修の開講、高校生介護体験の受け入れなども行っています。さらに事業利用者組織、訪問看護ステーションの機能強化などが課題です。
- ④ 無料低額診療事業の広報を強く受療権を守る運動の強化は、地域の民生委員との連携などさらに強化が必要な課題です。健康診断活動は前年を上回っています。

### 一 経営活動一

- ① 入院収入で前年比101.3%、外来前年比99.1%、訪問看護前年比85.9%、検診収入107.3%、予防接種98.6%、介護収入100.2%と収入を30,769千円(前年比100.9%)伸ばしましたが、費用も26,465千円(前年比100.8%)増えています。事業利益23,801千円・経常利益40,280千円・差引損益45,070千円となっています。
- ② 全事業所の赤字克服・経営改善の課題は、費用削減（借地買い上げ・人件費調整）などとりくみましたが、赤字事業所が残るなど課題が残っています。
- ③ 電気代削減の工夫（電力会社見直し・病院のLED化）や薬剤・医療材料の削減などをすすめました。

## 2. 健康づくりと組織・組合員活動

### 一 健康づくり一

- ① がんを早期発見し治療に結びつけるためにがん検診受診の組合員運動組織化は、医師・技術職、検診課と組織組合員活動の連携強化が課題です。
- ② 健康づくりの班、サークル活動が広がり、青空健康チェックが継続されています。4.7WHO世界保健デーにとりくみました。セーフティウオーキング、シニアエクササイズ（筋トレ&脳トレ）も継続してとりくまれています。生協ハイキングも5月に累計365回が開催され今年度も継続されました。
- ③ 2015ヘルスアップチャレンジ参加登録者は996名（カレンダー提出740名）、（2014/524名・2013/566名・2012/575名）、まとめ集会を1月27日に行いました。
- ④ 東中地区で9年ぶりの保健大学開講や全地区まちかど健康チェックや南地区で認知症サポーター養成講座などもとりくみました。自治体と連携しての保健学習・保健活動、全地区での保健教室の開催はさらに今後の課題です。

### 一 組織・組合員活動一

- ① 組織強化の4課題では、班会開催が1,188回と年度目標を超え、仲間増やし848、出資金増資66,794千円（減資71,843千円）、班づくり6班でした。担い手は後継者づくりが課題です。特に今年度は、日本高齢者大会のとりくみ後、強化月間後半から仲間増やしに力を入れ年度最終には前年並に到達しました。4月支部長会議では、2015年度方針と支部総会について交流・討議、秋

の「月間」では、組合員交流集会は10月に開催、10月27日の拡大支部長会議であらためて「月間」の方針推進を意思統一しました。②第29回日本高齢者大会 in 和歌山では、和歌山県実行委員会に事務局長や実行委員を派遣し、特に和歌山・海南・那賀連絡会の中や医療生協各地区・支部でも尽力し、全体2日間でのべ5100名参加と大成功に寄与しました。③医療生協運動のリーダー養成、担い手づくり、「ComCom」や「いつでも元気」誌の普及、ホームページの充実、ひきつづき課題です。

### 3. 平和・社会保障、明るいまちづくり

①社会保障の充実めざし、県・地域社保協の活動に参加しています。生協こども診療所・東地区は「こども応援広場」にとりくんでいます。こども医療費助成制度の拡充をめざす連絡会わかやまを組織し、こども医療費助成制度の拡充をめざすとりくみをすすめ、6月8日46,624筆の署名を提出し、2016年度和歌山市は入院・通院ともに中学校卒業までのこども医療費助成制度の拡充することに結びつき大きな運動とその成果が生まれました。

②消費税と社会保障の一体化改革阻止、TPP参加反対、核兵器廃絶・沖縄基地問題の運動にとりくみました。核廃絶署名にとりくみ、原水禁世界大会（於・広島）に民医連・民医労・医療生協から代表派遣(職員7名内わかば1名)、国民平和行進は参加者を広げることが課題です。平和夏まつりは東中・南・河西・海南が実施しました。那賀地区は秋祭りにとりくみました。③高齢者の昼食会、支部や班・サークル活動などでたまり場づくりがとりくまれています。④安保法案（＝戦争法）反対和歌山大会（7/12・西の丸広場・2500名）や憲法いかし、いのちまもる10.22国民集会（東京・日比谷公園）に和歌山中央医療生協、和歌山民医連、和歌山民医労から参加しました。年末から戦争法廃止2000万人署名にとりくみ、6994筆/目標18000筆になっています。原発ゼロ3.13アクション集会や脱原発署名にもとりくんでいます。滝畑の産廃つくるなの運動に参加しました。福島からの被災者検診にもとりくみました。和歌山民医連で年末には福島の事業所に今年もみかん200箱（2トン）を送りました。

### 4. 後継者づくり、職員養成

①2016年の研修医受け入れは1名（野々村達矢医師）です。引き続き全職員と組合員の共同で医師養成・医学対にとりくみ、ランチタイムミーティングや実習等のとりくみを通じて医学生とのつながりを広げています（医学部奨学生3名）。看護師の2016受け入れは8名、看護奨学生は17卒5名・18卒7名・19卒2名です。2016年新卒セラピスト5名、薬剤師3名を受け入れました。

②通信教育受講は206名の受講でした（組合員116名[100名]、職員90名[82名][修了者]）。職員制度教育（全職員が年1回は受講）で、「なぜ平和活動にとりくむのか～日本の侵略戦争の歴史」について学習しました。③全国の方針に基づく職場教育・職場づくりの推進はひきつづきの課題です。④沖縄辺野古連帯支援活動（10月・1月）に5名の職員を派遣しました。⑤全日本民医連や民医連近畿地協が企画する幹部や管理者の養成研修に積極的に参加しています。

### 5. 理事会・監事会活動

①理事会は毎月開催され、各地区協議会や支部運営委員会で運動の具体化がすすめられました。監事会は定期的に開催、各事業所の業務監査を継続しています。事業所利用委員会も事業所のチェックを行っています。

②和歌山県生協連、県・地域社保協、県・地域高齢者運動に参加して諸団体との共同をすすめています。

## II. 医療・福祉と地域をめぐる情勢

### (1) 安全保障政策をめぐる情勢

○民主主義、立憲主義のなし崩しと、憲法「改正」にむけた動きが再開されようとしています。

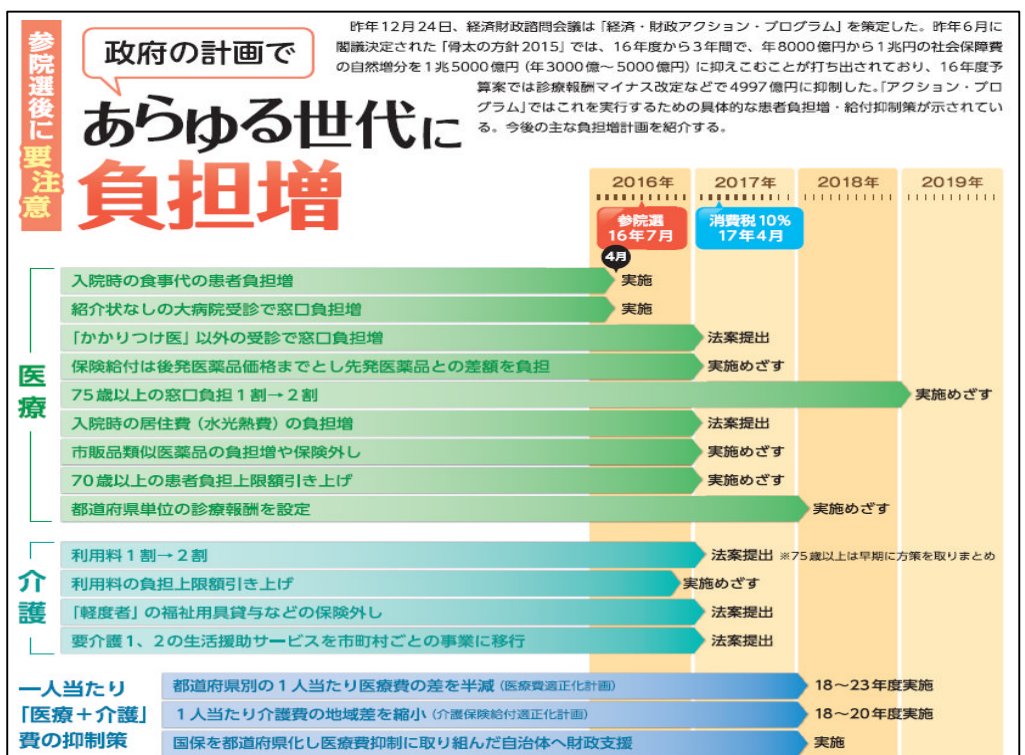
○沖縄の名護市辺野古新基地建設をめぐる沖縄県と政府の対立が激化し、県民の基地建設反対の世論との間で矛盾が深まっています。

○TPP（環太平洋パートナーシップ協定）大筋合意の具体化が進もうとしており、暮らしに甚大な影響が生じることが懸念されます。

○連帯を強め、憲法と平和を守る政策への転換を求める世論を急速に広げることが必要になっています。

### (2) 社会保障政策をめぐる情勢

○医療介護総合確保推進法の具体化により、社会保障費医療費の抑制と患者自



己負担増を軸とした施策がさらに進もうとしています。

○「一億総活躍社会(介護離職ゼロ等)」を掲げ、企業経済活動を最優先し国民の自助を基本にする施策が具体化されようとしています。

○社会保障の公的責任を求めるとりくみの重要性が増しています。

### (3) 暮らしと事業環境をめぐる情勢

○消費税率10%にむけた準備が進もうとしています。 ○雇用と賃金、暮らしの格差拡大が加速しています。

○国の地域包括ケアシステム、都道府県の地域医療構想の具体化がはかられます。

○診療報酬改定(引き下げ)による深刻な影響が懸念されます。 ○医師・看護師・介護職など専門職の採用の困難が続きます。

○原発再稼働が進められ、原発に頼らないエネルギー政策を求める世論との対立が激化しています。

## Ⅲ.2016年度活動方針(案)

# 「医療福祉生協の地域包括ケア」めざし、協同の力で

# 「地域まるごと健康づくり」、いのち輝く社会をつくろう

～日本国憲法が生きる平和な社会めざし、

安保法制(＝戦争法)廃止・社会保障充実を求め、学び・広げ・連帯しよう

重点課題を次のとおりとします。

①「無差別・平等の医療・介護」を追求し、各事業所のポジショニング(病棟医療や医療・介護の連携)の論議をさらにすすめます。「医療福祉生協の地域包括ケア」をになう事業(医療と介護)体制づくりをすすめ、医療・介護・生活支援の一体的提供の具体化をすすめます。

②地域支え合いセンター事業とサービス付高齢者住宅事業をすすめ、「食」・「住」など「生活支援」の分野の展開をすすめます。「医療福祉生協の地域包括ケア」をすすめるための「地域アンケート」活動を立命館大学と共同研究ですすめ、地域住民の中で共同を広げながら事業と運動の検討をすすめます。

③組合員活動では、「つながりマップ」づくりをすすめながら、「居場所づくり」、支部づくりと担い手ふやし・「健康と暮らし」配布協力者ふやしをすすめます。組織担当・部を「地区支部とともに」「地域包括ケア・生活支援マネジメント機能を持てる」事務局に発展させます。通信教育を大きく広げ、「すこしお生活」普及など健康づくりの多彩な活動にとりくみます。和歌山市が後援団体となったヘルスアップチャレンジを大胆に広げ、「仲間ふやし」と事業に見合った「出資金ふやし」など4課題をすすめます。

④安保法制(＝戦争法)廃止、立憲主義回復の運動をすすめ、協同の力で社会保障の充実、安心して住みつつられるまちづくりをすすめます。原発、米軍基地、消費税増税、TPP参加反対などの活動と核兵器廃絶・平和の運動にとりくみます。

⑤医師確保(新卒・既卒・非常勤含め)・医師研修と新専門医制度に対応した医師養成を医療生協の事業と運動の中心課題としてとりくみます。介護福祉士実務者研修などで介護職員養成を行い、各職種の新卒学生づくり、後継者対策を前進させます。次世代の幹部・役職者養成も重視します。

⑥中長期計画(第6次長期計画)をつくりまします。

### 1. 事業・経営活動

#### － 保健・医療・福祉(介護)－

「地域まるごと健康づくり」を事業(医療と介護)・組合員活動の両面からとりくみ、連携と協同を法人内外で強め、事業活動を強化します。

①医療・介護の連携と協同を法人内外ですすめるために体制を強化し、各事業所や組合員活動も含めて連携と協同をすすめます。入院と在宅・介護との連携を強化し、それぞれの事業所の在宅支援機能、かかりつけ医機能を強めます。中重度への対応力、認知症、在宅看取り、生活リハビリ機能を強化します。訪問リハも実施します。医療と介護の質の向上をつとめます。入院機能は無差別平等の地域包括ケアを支える地域になくはない病院として、主に高齢者を中心とした急性期病床機能と在宅医療を支える回復期の病床機能を強めます。1.5テスラMRIを導入し診断能力を強化します。

②地域支え合いセンター事業とサービス付高齢者住宅事業をすすめ、「食」・「住」など「生活支援」の分野の展開をすすめます。支部と連携して、高齢者・障害者・子どもまでを視野に入れ、暮らしを支える役割を發揮します。自治体や社会福祉協議会、地域包括支援センター、自治会・民生委員会、老人会・婦人会などの連携を強め、「医療福祉生協の地域包括ケア」をすすめるための「地域アンケート」活動を立命館大学と共同研究ですすめ、地域住民の中で共同を広げながら事業と運動の検討をすすめます。

③介護事業部の機能をさらに強め、事業利用者組織をすすめ介護事業所の黒字化をめざします。訪問看護ステーションの機能強化、訪問介護、特定事業所居宅介護支援事業の強化を図ります。自治体の総合事業の動向を注視し、協議体参加など働きかけを強めます。

④「地域まるごと健康づくり」の面から、組合員の利用結集と健康づくりを支援します。無料低額診療事業の広報を強め受療権を守る

運動を強めます。また健康診断活動を目標にこだわり大胆に推進します。

#### 一 経営活動一

- ①組合員・職員の事業経営への参加を強め、全事業所の赤字克服・経営改善をはかります。全事業所で利益確保をめざします。
- ②電気料金・医療材料をはじめ薬剤のジェネリック化など購入見直しや仕事の効率化、経費削減に努めます。
- ③金利マイナス時代に、事業を支える出資金増やしを大胆にとりくみます。

## 2. 健康づくりと組合員活動

### 一 健康づくり

- ①がんを早期発見し治療に結びつけるためにがん検診受診の大きな組合員運動をめざします。支部で検診受診の意義と目標を論議・設定してとりくみます。支部のレーザータッチに位置づけをします。
- ②要求に見合った健康づくりの班、サークル活動を広げます。セーフティウォーキング、認知症サポーター養成講座、シニアエクササイズ（筋トレ&脳トレ）や脳いきいき班会(教室)を普及し広げます。
- ③和歌山市が後援団体となったヘルスアップチャレンジ2016は、6月には準備して地域に大きく宣伝組織をし、より多くの地域住民・組合員が参加するとりくみをめざします。まとめ集会に加えキックオフ集会を開催し、全支部健康づくり委員づくり、サポート企画や体験談の紹介・交流をはかりながら推進します。通信教育「医療福祉生協の地域包括ケア」、「地域まるごと健康づくり」コースを大きく広げ、「医療生協の健康習慣」「健康チェックサポーター」養成の講師活動にとりくみます。HPH（ヘルスプロモーションホスピタル）のとりくみや健康づくりチャレンジを大胆に広げます。
- ④保健大学・教室など全体でも各地区でも検討します。自治体との連携や講師派遣要請なども相談します。

### 一 組合員活動一

- ①「仲間ふやし」に重点を置きつつ4課題をすすめ、「つながりマップ」づくりをすすめながら、「居場所づくり」、支部づくりと担い手ふやし・「健康とくらし」配布協力者ふやしをすすめます。組織部を「地区支部とともに」「地域包括ケア・生活支援マネジメント機能を持てる」事務局に発展させます。ボランティア委員会は、ボランティア登録を組織しており、ボランティア講座を開催するべく準備しています。②4課題の目標は、仲間増やし1000名、サービス付高齢者住宅建設・新MRI更新のための出資金増資1億円、班づくり30班と班会開催1000回、担い手増やし（支部運営委員・機関紙配布協力者）200名目標（各地区目標明確化）でとりくみます。そのための担当理事・事務局の戦略を深めます。現地区内機関誌配布100%をめざします。9日・25日を「組合員利用100%デー」として毎月のとりくみを重視し推進します。③「comcom」「いつでも元気」誌の普及、宣伝・広報活動の強化、ホームページの強化活用をすすめます。
- ④第13回全日本民医連共同組織交流集会（石川）、第30回高齢者大会 in 東京は、必要な財政活動を行い成功に結びつけます。理事会・組織組合員活動推進本部会議がリーダーシップを発揮します。

## 3. 平和・社会保障、まちづくり

安保法制（＝戦争法）廃止、立憲主義回復の運動をすすめ憲法を守る運動をすすめるとともにいのちの分野に生かし、県・地域の社保協とともに、協同の力で社会保障の充実、安心して住みつづられるまちづくりをすすめます。原発、米軍基地、消費税増税、TPP参加反対などの活動と核兵器廃絶・平和の運動にとりくみます。特に7月の参議院選挙では組合員・職員の学習と投票参加をすすめます。

現場の事例集めや相談活動を強め、無料低額診療事業の交流とアピール活動を強めます。「介護保険の改善をめざす和歌山実行委員会」の活動に参加します。核兵器廃絶、原水禁大会、平和行進、平和夏まつり、沖縄辺野古連帯支援行動など、組合員・職員の平和活動を発展させます。和歌山県と地域の高齢者運動連絡会の活動に参加します。原発事故被災地の支援活動、原発からの撤退と日本のエネルギー政策の転換を求める学習と運動にとりくみます。「災害に強いまちづくり」（地域や自治体との連携、支部や班での防災マップづくり、事業所の防災対策）と事業所の省エネをすすめます。滝畑の産廃やゴミ問題など環境課題にもとりくみます。

## 4. 後継者づくり、職員養成

- ①組合員・職員共同の力で、医師研修と新専門医制度に対応した医師養成、医師・看護師・セラピスト奨学生づくり、各職種の後継者対策を前進させます。新たな医学生奨学生2名以上誕生をめざします。
- ②医療福祉生協の「いのちの章典・理念」「医療福祉生協の地域包括ケア」を学び論議し、「医療生協の健康習慣」「健康チェックサポーター」養成の講師活動、「地域まるごと健康づくり」の職員・組合員づくりをすすめます。そのための学習と論議をすすめます。
- ③ 職場教育・職場づくりや各職種政策・方針とマニュアルづくりにとりくみます。次世代の幹部・役職者づくりの具体的な実践と研修を組み合わせたとりくみをすすめます。職員は事例を大切に、「comcom」「いつでも元気」誌や民医連新聞・民医連医療・資料などを活用し、職場で運用します。
- ④全国の総会方針はじめ方針をよく学び事業所と職場に活かします。全国・近畿の管理者養成研修、各職種の研修に参加していきます。

## 5. 理事会・監事会活動

- ①理事会は事業と運動の要としての役割強化をはかります。「地区協議会」で組合員と事業所の意見・要望がよく論議され理事会に反映される運営や事業所の民主的管理運営の強化をはかります。理事の学習と全国やブロックの学習会への参加を強めます。
- ②理事会専門委員会の役割強化、監事・監事会活動の発展をはかります。